

愛知県総合的病害虫・雑草管理(IPM)実践指標

手 法	チエック事項(注)	栽培形態						チエック
		稲	麦	大豆	野菜・花き (露地)	果樹・茶 (露地)	野菜・果樹・花き (施設)	
病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	栽培計画	栽培品種、施肥量、栽培時期、収穫時期、栽培方法などの計画を立てている。	○	○	○	○	○	○
	ほ場の選定	土壌伝染性病害虫の発生が少ないほ場を選択している。	○	○	○	○	○	○
	連作回避	連作障害を回避するため、輪作を行っている。		○	○	○		○
	栽培用の水	水源(農業用水、地下水、水道、その他)が明らかな水を用いて、必要に応じて殺菌をしている。	○	○	○	○	○	○
	土層改良	深耕等、透排水性の改善を行っている。	○	○	○	○	○	○
	土づくり	たい肥、緑肥などの有機物を施用し、土づくりをしている。	○	○	○	○	○	○
	有機質資材	たい肥を施用する場合は、病害虫・雑草による汚染を防止するため、十分に発酵したものを使用している。	○	○	○	○	○	○
	適正施肥	定期的に土壌診断を実施している。	○	○	○	○	○	○
		県の施肥基準やJA等の栽培暦に基づいた施肥を行っている。	○	○	○	○	○	○
	施設環境	施設内の温湿度などを記録し、施設環境を調整している。						○
残さの除去	不要な苗、収穫後及び罹病した残さを適切に処分している。	○	○	○	○	○	○	
病害虫の発生状況の把握	適期防除のために、病害虫の発生状況を観察や予察情報などで確認している。	○	○	○	○	○	○	
	気象状況の把握	気象状況を把握し、適期防除を行っている。	○	○	○	○	○	○
化学的防除	農薬の適正使用	使用する作物に適用のある農薬をラベルの使用基準どおり使用している。	○	○	○	○	○	○
		農薬の入出庫管理簿をつけ、在庫のチェックと計画的な利用をしている。	○	○	○	○	○	○
	薬剤抵抗性発達の防止	同一系統の農薬の連用を避けるなど、薬剤抵抗性に考慮した防除をしている。	○	○	○	○	○	○
農薬の飛散防止対策	粒剤などの飛散しにくい剤型の選択又は、散布機の風量、圧力、ノズルなどに注意している。	○	○	○	○	○	○	
	水田への農薬散布後7日は河川等に流出しないよう、かけ流しや漏水などのない水管理を行っている。	○						
化学的防除によらない防除	温湯種子消毒	温湯、乾熱などによる種子消毒を行い、種子伝染性病害虫を防除している。	○	○		○	○	○
	機械除草	中耕除草機、管理機、ブームモアなどの機械を利用し、ほ場又は畦畔の雑草を防除している。	○	○	○	○	○	○
	除草用動物利用	アイガモ、コイなどの小動物を利用して雑草を防除している。	○					
	生物農薬利用	生物農薬、天敵などを利用して病害虫を防除している。	○		○		○	○
	対抗植物利用	抵抗性品種を利用したり、対抗植物のすき込みにより、センチュウ類、根こぶ病などの病害虫を防除している。				○		○
	抵抗性品種・台木利用	病害虫に抵抗性のある品種を利用している。	○	○	○	○	○	○
	土壌還元・熱利用土壌消毒	土壌を還元状態にすること、又は太陽熱、熱水、蒸気などの熱利用により、土壌中の病害虫・雑草を防除している。				○		○
	光利用	反射資材、粘着資材、防虫灯、紫外線除去フィルムなど、特定の波長の光を利用して、病害虫のまん延を防止している。				○	○	○
	被覆栽培	苗床や栽培ほ場を防虫ネット、防風ネット、防風樹などで被覆して、害虫の飛来や風害に起因する細菌性病害の発生を防止している。				○	○	○
		果実に袋掛けを行って病害虫を防除している。				○	○	○
フェロモン剤利用	フェロモン剤などを利用して害虫を防除している。			○		○	○	
マルチ栽培	マルチ資材で被覆して病害虫・雑草を防除している。	○			○	○	○	
その他	器具の洗浄	農業機械及び作業用具の洗浄やハサミの消毒を行っている。	○	○	○	○	○	○
	栽培記録	種子、肥料などに関する情報や各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況を記録している。	○	○	○	○	○	○
合計点数、対象IPM計			24	21	22	29	26	30

(注)チェック事項のうち明らかに該当しない場合には、産地等のチェックシートから除くことができます。